

連合 徳島



JTUC-TOKUSHIMA

NO.179 (2009年1月1日)

発行人・川越敏良 編集人・小松義明

日本労働組合総連合会徳島県連合会

〒770-0942 徳島市昭和三丁目35-1

徳島県労働福祉会館6F

088-655-4105 Fax 088-655-4113

E-MAIL info@tokushima.jtuc-rengo.jp

すべての働く者の連帯で、ともに働き暮らす社会をつくろう

当
面
の
日
程

1月 7日(水) 県職連合旗開き 18時(グランヴィリオホテル)
8日(木) 2009年新年互礼会 16時(阿波観光ホテル)
9日(金) 自治労県本部旗開き 17時30分(ホテル千秋閣)
中小労働対策本部旗開き 18時

今年こそ政治と政策の転換を！



連合徳島
会長 川越 敏良

新年明けましておめでとうございます。昨年一年間、各構成組織の役員並びに組合員と家族の皆様が、連合徳島の諸活動にご支援ご協力いただいたことに心から感謝を申し上げます。

特に、昨秋の政権交代をめざす総選挙の諸準備について各構成組織・各地協の皆さんのご奮闘に心から敬意を表します。アメリカ発の世界同時金融危機は、瞬く間に、日本の実体経済に大きな影響を及ぼし、各企業の大幅な減収減益という事態を迎えています。

特に内定取り消しをはじめ、派遣労働者などの非正規労働者や期間雇用の契約社員が途中の契約解除すなわち解雇になるなど、勤労者にとって大変厳しい情勢となっています。

これらの企業の動きは、社内留保は温存するなど企業論理のみを優先させ、労働者のみに犠牲を強いるものであるとともに、法的にも問題があり、許されるものではありません。

このような情勢の中で、昨秋に政権与党内のたらい回しで誕生した麻生政権は、選挙のみならず政策までも先送りするなど、有効な手だてを何一つ打てておらず、混迷の度を深め、このままでは、日本が「泥船」と化し、沈没しかねません。

私たちは、改めて、早期の解散・総選挙を求め、国民の審判を受けた新政権の下で、迅速かつ実効性のある施策の実施を求めていく必要があります。

そのために、何としても総選挙で民主党を中心とする野党勢力の勝利と政権交代を図る必要があります。

そして若者や子ども達が夢や希望を語り、お年寄りや障害者が安心して暮らせる、「労働を中心とした福祉社会」を実現するために私たちの奮闘が期待されています。ともに頑張りましょう。

新年のごあいさつ



日本労働組合総連合会
会長 高木 剛

新年おめでとうございます。

歴史の転換点、希望の国へ舵を切る年、2009年を迎えまし

た。

世界中を席卷した新自由主義が掲げてきた自由な金融市場のイデオロギー、グローバルスタンダードと呼ばれた市場原理主義が暴走の末破綻、世界同時金融危機を巻き起こし、その終焉を迎えました。迎えた2009年は、これまでの流れから大きく舵を切る、歴史的転換点の年にしなければならぬ年です。

市場原理主義は大きな爪痕を残しました。社会的公正や安心・安全という社会の岩盤が揺らぎ、格差は拡大し、貧困が増加しました。競争は熾烈を極め、ゆとりのない不安と不信の社会を招来、コミ

ュニティーも崩壊しています。これが市場原理主義を推し進めた結果であり、強い怒りを禁じえません。

むきだしの競争社会では人は生きていけない。「連帯と相互の支え合い」という協力原理が活かされる社会、ぬくもりのある思いやりの社会とするため幅広い国民的合意を形成しなければなりません。不安と不信の国から希望の国へ。価値観の転換を図るためのキーワードは「連帯」「公正」「規律」「学びと育ち」「包容(インクルージョン)」といった言葉になると思います。

そして、この歴史的な転換の年に、連合は結成20周年を迎えます。労働運動もこの節目にさらなる飛躍を遂げなければなりません。2009年こそ将来に希望が持てる日本に変える年にする。国民の怒りの先頭に労働運動が立ち、パラダイムの転換を牽引していく。

社会からの期待に沿えるよう、連合運動総力を挙げることをお伝えし、同時に皆様のご奮闘を心からお願いし、新年の挨拶とさせていただきます。